

<2018年3月期 第3四半期>

決算補足説明／成長戦略説明資料

データセクション株式会社

2018年2月9日

証券コード：3905



1. サマリー
2. 2018年3月期 1Q～3Q実績
3. 3Q実績と4Q以降の展開
4. 投資に関する考え方
5. 中長期戦略と経営に関する考え方
6. コーポレートメッセージ

3Qの種まき期から、4Q以降の収穫期への進展

4Q以降の収益化に向け、順調に橋頭堡を築く。



上期に引き続き、自社事業の立ち上げにリソースを集中。4Q以降の収益増を見込める状態に。

3Qに立ち上げた事業から収益を見込める体制を確立。さらなる発展へ。

AI・ビッグデータ事業のイノベーターとして業界を席巻。

M&Aに向けた調査・準備

一部収益化とともに、継続してAIへ積極投資

AI・ビッグデータ活用によりレガシー事業を先進企業に

- 1.KAGネットワークソリューションズ (K-net)の株式取得
- 2.独自のAI開発プラットフォーム・MLFlowリリース (エムエルフロー)
- 3.ベトナムでの事業推進

- 1.K-netの事業継承
- 2.AIプラットフォーム・MLFlowによる開発ソリューションの事業化展開
- 3.ベトナム事業の本格稼働

- 1.K-net事業をAIにより高付加価値化
- 2.AIプラットフォーム・MLFlowを業界標準に
- 3.ベトナムでの事業をさらに他の国へ



売上が404百万円、
営業利益は△8百万円となった



DSグループ全体で
1.5倍~2倍の収益を見込む



DSグループ全体で
5倍~10倍の収益を目指す

2. 2018年3月期 1Q~3Q実績（損益計算書／連結）

- ▶売上高の減少は、受託型研究開発案件から自社サービスの立ち上げにリソースをシフトさせていることによる。
- ▶営業費用の増加は、事業拡大投資に伴う固定費の増加、自社サービスの為のソフト償却、新サービス開発の人件費による。

(単位：百万円)

	第17期 (1Q~3Q)	第18期 (1Q~3Q)	増減額	増減率
売上高	415	404	△10	97%
営業費用	365	413	47	113%
営業利益	49	△8	△58	—
経常利益	45	△11	△56	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	30	△7	△37	—

2. 2018年3月期 1Q~3Q実績（貸借対照表／連結）

- ▶流動資産の増加は、資金調達による現金及び預金の増加623百万円が、主な要因である。
- ▶固定資産の増加は、投資有価証券の増加55百万円が、主な要因である。

(単位：百万円)

		第17期末 (連結)	第18期3Q末 (連結)	増減額
資産	流動資産	865	1,468	602
	固定資産	310	396	85
	資産合計	1,175	1,864	688
負債純資産	負債合計	102	57	△45
	純資産	1,073	1,806	733
	負債純資産 合計	1,175	1,864	688

事業方針

2018年3月期 2Qから3Qにかけては、自社サービス提供モデルへの転換を方針として継続。
先行投資による種まきが実っており、4Q以降刈取りの時期へ。

2018年3月期
2Q~3Q

自社開発のAIプラットフォーム
「MLFlow」による
ソリューション提供などにリソースを集中

収益は安定しているが、
人手不足などの課題を抱えた
労働集約型ビジネスへ積極的投資

2018年3月期
4Q以降

AI×ビッグデータによる自社サービスで
業界のイニシアティブをとる

レガシー事業を、
AIにより成長企業へと変革させることで
収益を得る

4Q以降収益アップへ

4Qについては大型案件が受注できており、クォーターベースでの過去最大売上利益の見込み
(クォーターベースで過去最高売上の2倍程度)

この方針実現に向けた主なアクション

1. KAGネットワークソリューションズ (K-net) を子会社化
AIにより高い価値のある事業体へ転換
2. AIプラットフォーム「MLFlow」を業界標準の一つへ
3. ベトナムでのソーシャルダイレクトマーケティングの取り組みを本格化
4. AIファンドの解析精度を向上。運用実績が向上し過去最高値のシャープレシオを記録

1. KAGネットワークソリューションズ（K-net）の子会社化

将来への狙い

- ・既存のシステム保守事業の安定的な収益をDSグループの収益として取り込む。
- ・さらに、レガシーなシステム保守事業を、AIにより企業価値向上させ収益向上を図る。
- ・DSグループとして現在の5倍～10倍の収益向上を目指す。
- ・保守・ネットワークサービスのソリューションベンダーとして業界1位を目指す。

3Qの実績

- ・ M&A仲介事業者・金融機関を通じてM&A先の調査、検討
- ・ 銀行との融資枠（10億円程度）の設定
- ・ K-netのデューデリジェンスの実施

短期的展開（2018年3月期4Q～2019年3月期）

- ・ K-net株式の取得
- ・ 金融システム保守事業による安定的な収益を連結
- ・ AIによる事業価値向上に着手
- ・ K-net買収による4Q以降の売上利益の取り込み（通期で1.5倍以上のグループ収益への貢献が見込まれる）

2. AI開発プラットフォーム・MLFlowを業界標準の一つへ

将来への狙い

- ・既存フレームワークの周辺工程をサポートするプラットフォームとしての地位を確立。
- ・既存フレームワークと共存しつつ、業界標準の一つへと普及を目指す。

3Qの実績

- ・データセクション独自のプラットフォーム「MLFlow」を開発し、 α 版提供開始
- ・複数企業とのパートナーシップにより、新規のAIソリューションを開発

短期的展開 (2018年3月期4Q~2019年3月期)

- ・既に、5社が α 版を活用
- ・ β 版提供により大幅な収益化を見込む

2. AI開発プラットフォーム・MLFlowを業界標準の一つへ

- ・ AIエンジニアのみならず、AIの技術をもたないベンダーにもメリットのあるプラットフォーム。
- ・ 開発者それぞれのニーズに合わせ、価値を提供できる製品として市場に提供。

	現場の課題	提供価値	今後の見込み
AIエンジニア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大量にあるデータの分類が面倒 ・ 開発したエンジンの置き場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ格納とエンジンのデプロイを簡易にすることで、開発そのものに集中できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sierなどのパートナー企業と大型案件のソリューション開発を行い収益化
AI技術を持たないベンダー	<ul style="list-style-type: none"> ・ データはあるが解析の技術がない ・ AIソリューションのアイデアはあるが技術者がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI技術を持たないベンダーでもMLFlowを使うことでAIソリューションを開発し製品化できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI技術を持たないベンダー向けの、AIソリューション開発キットを販売。

3. 海外でのソーシャルダイレクトマーケティング事業

将来への狙い

- ・ベトナムを中心に海外のビッグデータを活用。AIによる画像解析とも合わせ、流通などの業界で新規事業を展開し、グループ全体の売上アップに寄与。
- ・AIに関する人材派遣など、AIを軸に新規事業も展開。

3Qの実績

- ・ベトナムを中心に海外のビッグデータの収集。4,400万のユーザー接点についてデータベースを整備
- ・ビッグデータ活用によりベトナム現地でのターゲティングプロモーションサービスを構築

短期的展開 (2018年3月期4Q～2019年3月期)

- ・海外のビッグデータ活用を進め、マーケティング事業を展開する他、新たに他の事業体へも進出
- ・現地の小売り大手日系企業において試行利用が始まっており、売上へ寄与

4. AIファンドの運用実績向上

将来への狙い

- ・ AIによる投資判断が人知を超えるタイミングでファンド市場を席卷。
→ AIエンジンが人知を超えるブレイクスルーを主導することで爆発的な売上利益を伸ばす。

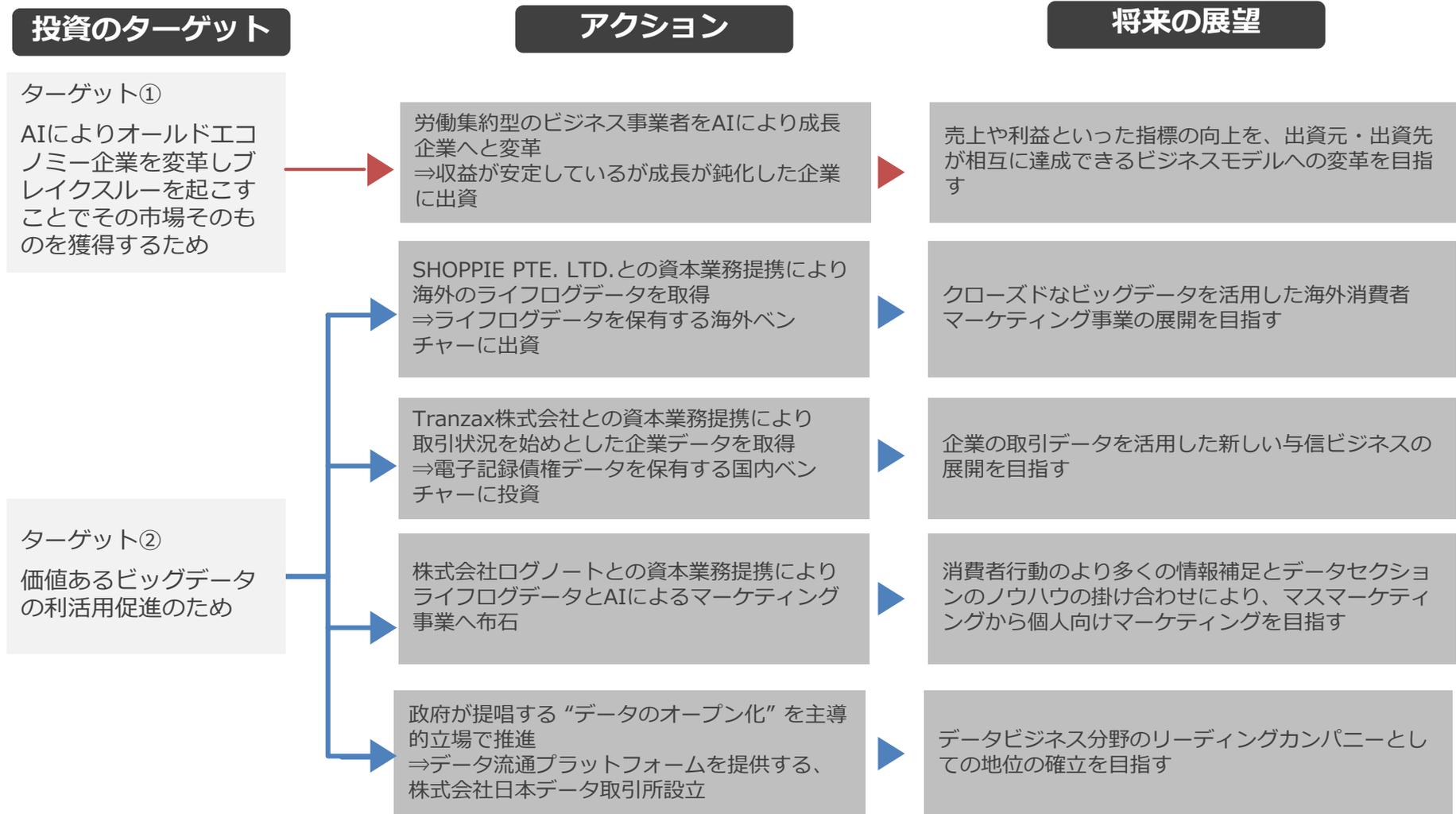
3Qの実績

- ・ AIエンジンの精度改善を継続し、シャープレシオ2.3を実現
(ロングショート型の主要ファンドのシャープレシオ平均は、1.98)

短期的展開 (2018年3月期4Q~2019年3月期)

- ・ 下げ相場に強いファンドとして特化
- ・ シャープレシオ3~4を目指し、AIの株式運用能力が人の運用能力を超えたことを証明していく

当社の投資に対する考え方と過去の投資アクション



実績：KAGネットワークソリューションズ（K-net）買収

- ・ K-netは、大手金融機関が保有する基幹システムの運用保守、その他幅広くシステム運用の業務受託やお得意先様に常駐しての開発等を行っている。
- ・ 労働集約型のレガシー事業をAI事業へ転換することによってナショナルベンダーを目指す。

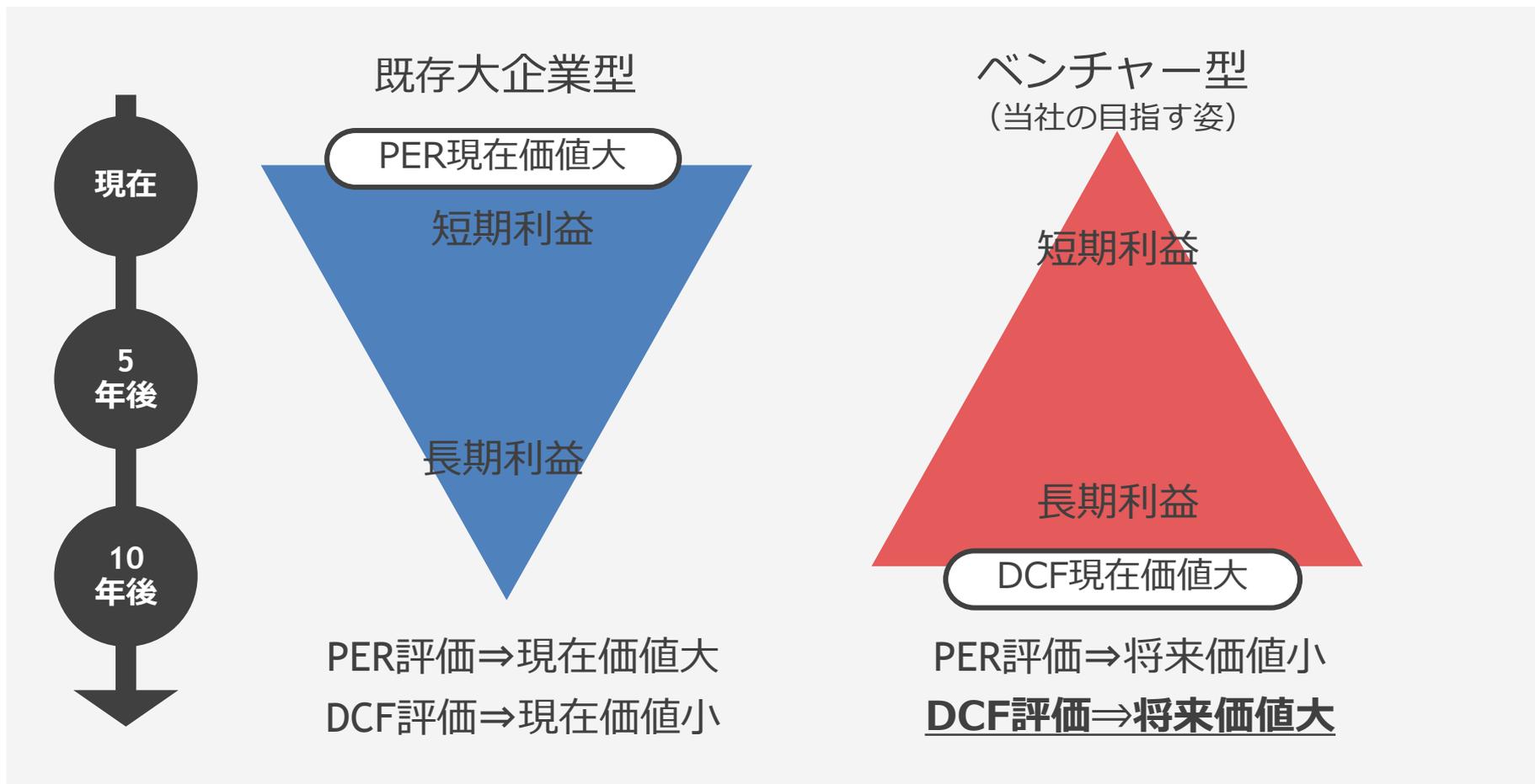
今後、基幹システムの運用保守業務にもAIが導入・活用されていくことが予想されるところであり、そのAIの参入余地と将来性を重視。

- ・ **DSグループの連結決算へのインパクトが増大**
- ・ **労働集約型のレガシー事業を、AIにより将来性ある事業とすることを通じて、日本経済を活性化**

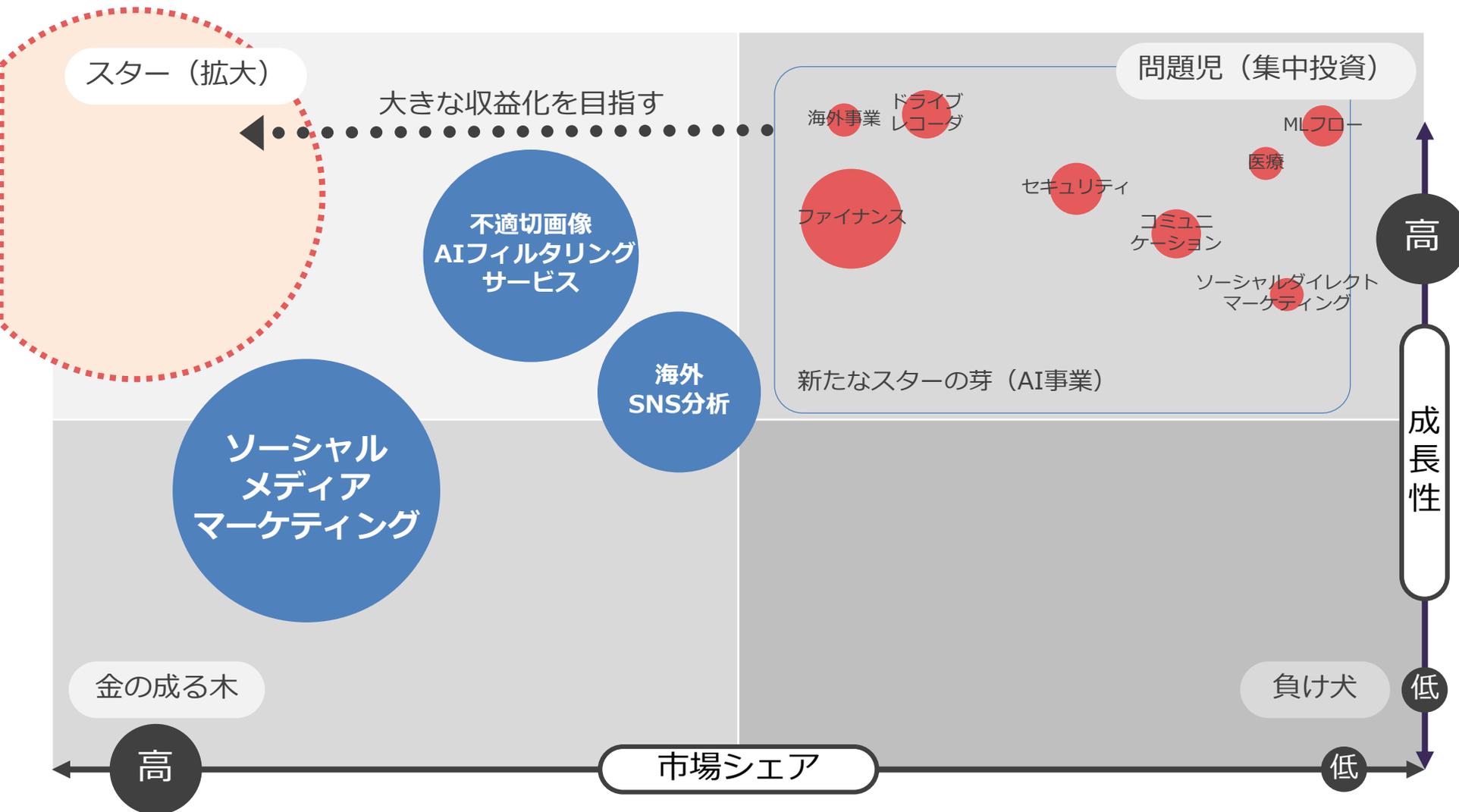
基本姿勢

データセクションの経営方針 = DCF基準での現在価値最大化

➔直近の受託売上による短期的な利益最大化ではなく、長期的な成長を重視し、人材・開発に積極的投資

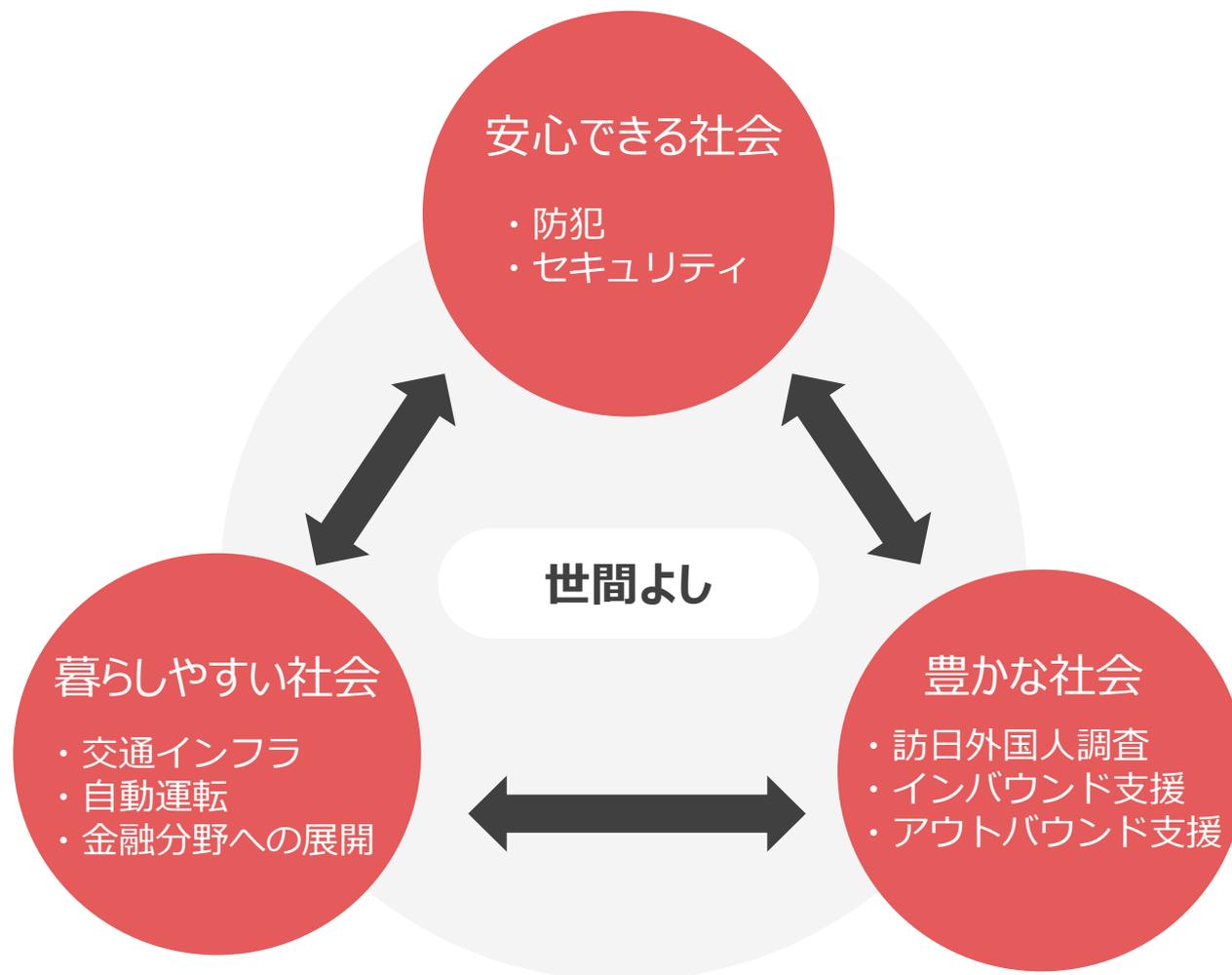


スターの芽を成長させ 大きな収益化を目指す



売り手よし、買い手よし、世間よし

社会インフラとしての価値を創出するべく、公共性の高い事業へ積極的に取り組む。





未来のビジネスを AIとデータで創造する

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。